「身近な社会保障を学んでいく」ワークシート
活用マニュアル（解答例とねらい）

この教材のねらい

この教材は、社会保障制度とわたしたちの生活がいかに密接に関与しているかを理解した上で、その給付と負担のあり方などについて、幅広い議論が展開できるように作成しています。

教材は「ワークシート」形式になっており、ワークシートに沿って学習を進めることで、議論をより深いものにすることを目指しています。

社会保障制度については、世界でも様々な考え方があり、各国によって制度は異なっています。つまり、社会保障制度は、その国の社会・生活に対する価値観を反映したもの、ということができます。

したがって、設問については、必ずしも一つの「正しい解答」があるものばかりではありません。

学習を進めるにあたっては、生徒に自由に意見を発表させたり、議論させたりして、主体的に考えさせることに重点を置いてください。

この教材を通じた学習は、公的年金のあり方や、保険料を納める意味、少子高齢化への対応など社会保障制度のあり方について考えるきっかけとなり、社会の一員としての自覚を身に付けることが期待できます。

学習指導要領との関係

このマニュアルに沿った学習は、公民科・家庭科の教科目標達成に資するものと考えられます。

（公民科の教科目標）
「広い視野に立って、現代の社会について主体的に考察させ、理解を深めさせるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を育て、平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う」

（家庭科の教科目標）
「人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識と技術を習得させ、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する能力を実践的な態度を育てる」

ねらいと解説

「社会の一員として生きていくこと」とは①

★ ねらい
○ 初任給での生活をシミュレーションする中で、人生には様々なリスクが存在していることや、自立を支援する仕組みの必要性を理解させる。

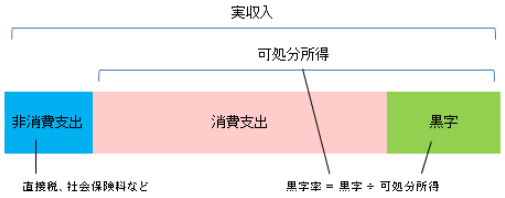
(1)

★ ねらい
○ 生活していくこと、やりくりの厳しさを理解させる。

★ 解説
○ 「税・社会保険料」･･･総務省『家計調査年報（家計収支編）平成24年 家計の概況』によれば、勤労者世帯の直接税，社会保険料などの非消費支出の割合は17.9%であった。

○ 「預貯金その他」･･･預貯金額は家族構成や年齢、生活スタイル等によって異なる（必要額に応じて毎月の貯蓄額を決める等）が、貯蓄額がゼロというのは望ましい状態ではないため、10%程度は設定するようにする。

＊参考
総務省『家計調査年報（家計収支編）平成24年 家計の概況』では、可処分所得に占める黒字額（可処分所得から消費支出を差し引いた額）の割合である黒字率は勤労世帯で27.9%であった（可処分所得は、実収入から非消費支出を差し引いたもの）。



★ 展開の工夫
○ 厳密にやる必要はなく、やりくりの厳しさが実感できれば良い。

○ 「税・社会保険料」については、給与明細や源泉徴収票の実物を用いて説明すると良い。

「身近な社会保障を学んでいく」ワークシート

「社会の一員として生きていくこと」とは

あなたも何年後かには、自分で働いてお金を稼ぎ、社会の一員として自立して生きていくことになります。

（1）高校卒業後の初任給（157,000円とします）で、自立した一人暮らしのやりくりを考えてみましょう。

		記入欄	参考資料			
			節約型	普通	贅沢型	備考
支出	家賃	， 円	50,000	65,000	75,000	給料の1/3が目安
	食費	， 円	25,000	30,000	40,000	
	水道･光熱費	， 円	6,000	10,000	15,000	
	携帯等通信費	， 円	3,500	5,000	10,000	
	娯楽費	， 円				
	税･社会保険料	， 円				
	預貯金その他	， 円				給料の約10%
	合　計	， 円				

＊税・社会保険料は想像で記入してみよう

① 収入から支出合計を引いた額は？
（プラスの額があればそれは預貯金に加えられます）

円

② マイナスの人は何を減らしますか？

（2）頑張ってやりくりして生活しているあなたは、以下の事態に直面しました。あなたならどうしますか？

① 病気にかかり2週間入院。医療費が合計で50万円。

② 会社が倒産、失業してしまい、次の仕事を探すまで3ヶ月かかった。

（3）働いて自分の力で生活していくことは大切なことですが、病気や障害などやむを得ない理由でそれが困難になる人もいます（誰もがその可能性があります）。そういう人にどう対処するべきと思いますか。

「社会の一員として生きていくこと」とは②

(2)

★ ねらい

○ 自分の努力だけではどうにもならないリスクの存在に気付き、社会保障制度の必要性を理解させる。

★ 解説

○ 「貯金を取り崩す」「親から借りる」等の回答も予想されるが、最後は、①②それぞれのケースでの現行制度の保障を説明する。2ページの「私たちの生活と社会保障」を適宜参照。

①公的医療保険
3割負担は約15万円であるが、この場合、高額療養費制度（負担月額を一定限度（一般的な所得の人で8万円位）におさえる制度）も適用される。

②雇用保険
たとえば、失業等給付の基本手当は、定年、倒産、契約期間の満了等により離職し、失業中の生活を心配しないで、新しい仕事を探し、1日も早く再就職するために支給されるもの。
年齢、雇用保険の被保険者であった期間及び離職の理由などによって、90日～360日の間支給される。

(3)

★ 解説

○ 個人の力だけでは備えることに限界がある生活上のリスク（病気、けが、老齢、失業、死亡など）に対して、社会全体でセーフティネットを作り支えようとする仕組みが社会保障制度である。

○ 社会保障制度などの社会の仕組みも理解、活用しながら、生きていくこと、また、こうした支え合いの意義を理解し、参加しようという意識を持つことが社会の一員として生きていくということと言える。

「身近な社会保障を学んでいく」ワークシート

「社会の一員として生きていくこと」とは

あなたも何年後かには、自分で働いてお金を稼ぎ、社会の一員として自立して生きていくことになります。

（1）高校卒業後の初任給（157,000円とします）で、自立した一人暮らしのやりくりを考えてみましょう。

		記入欄	参考資料			
			節約型	普通	贅沢型	備考
支出	家賃	， 円	50,000	65,000	75,000	給料の1/3が目安
	食費	， 円	25,000	30,000	40,000	
	水道・光熱費	， 円	6,000	10,000	15,000	
	携帯等通信費	， 円	3,500	5,000	10,000	
	娯楽費	， 円				
	税・社会保険料	， 円				
	預貯金その他	， 円				給料の約10%
	合　計	， 円				

＊税・社会保険料は想像で記入してみよう

① 収入から支出合計を引いた額は？
（プラスの額があればそれは預貯金に加えられます）

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿円

② マイナスの人は何を減らしますか？

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

（2）頑張ってやりくりして生活しているあなたは、以下の事態に直面しました。あなたならどうしますか？

① 病気にかかり2週間入院。医療費が合計で50万円。

② 会社が倒産、失業してしまい、次の仕事を探すまで3ヶ月かかった。

（3）働いて自分の力で生活していくことは大切なことですが、病気や障害などやむを得ない理由でそれが困難になる人もいます（誰もがその可能性があります）。そういう人にどう対処するべきと思いますか。

ねらいと解説

わたしたちの生活と社会保障

★ ねらい

○ 社会保障制度は、高齢期だけではなく、一生を通じて私たちの生活を守っている、身近なものであることを理解させる。

○ 直接的な金銭の給付だけでなく、制度があることで、私的な扶養の負担が軽減されているという役割にも気付かせる。

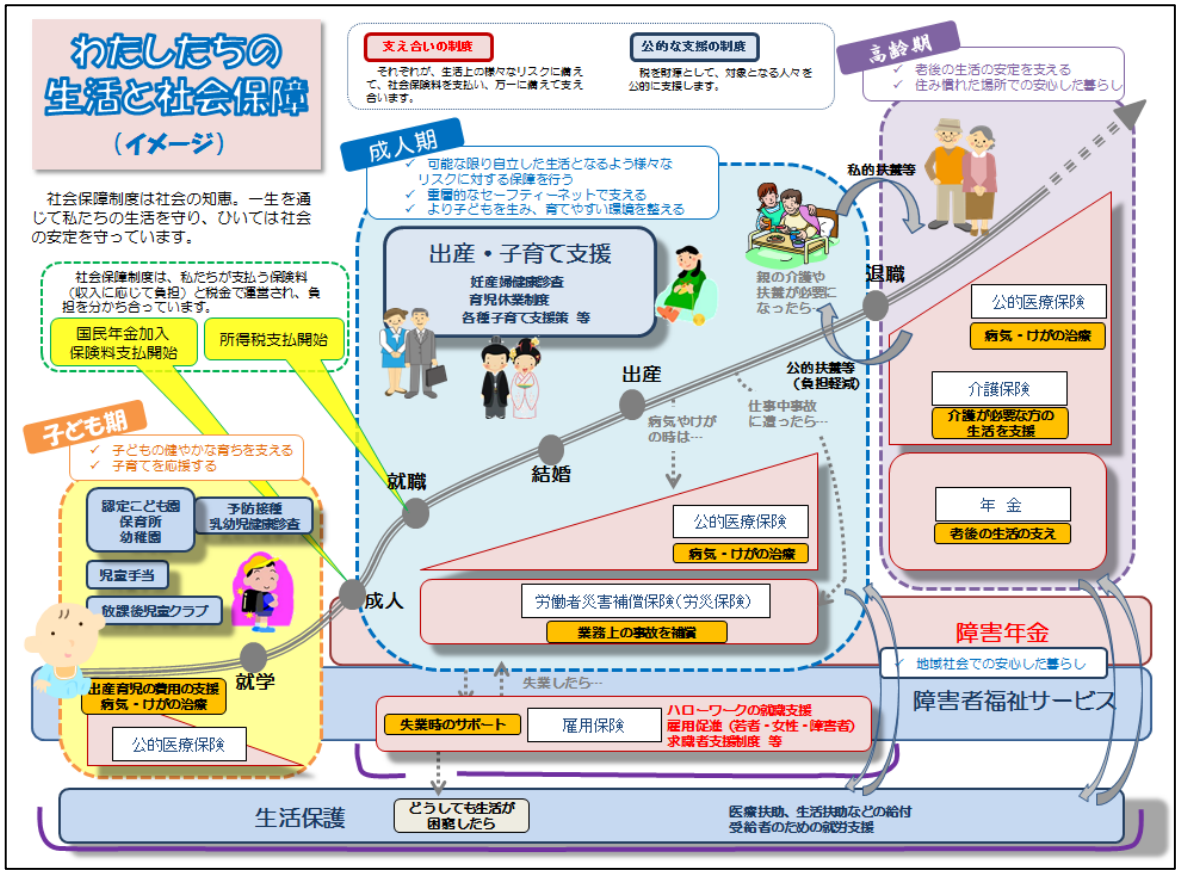
★ 展開の工夫

○ 一生の間にどんな保障を受けているか、ということを話しながら、空白部分の制度名を記入させ、制度の全体像をつかむ。

○ 同時に、その保障がなかったらどうなるか＝あるおかげで助かることを一緒に考える。

・ 公的医療保険（健康保険）なら、ケガや病気の時の経済的負担が軽減されること（スライド中央部分）

・ 年金や介護保険なら、「個々人で（私的に）親を支えていた」のを「社会全体での支え合い（社会化）」に広げた制度であり、かつては家族で直接支援してきた私的な支出が軽減されており、高齢世代だけでなく現役世代にとっても大きな意義があると言える（スライド右上部分）。



ねらいと解説

ライフサイクルでみた社会保障の給付と負担のイメージ

★ ねらい

○ 前ページのシートとあわせて、社会保障が遠い将来のことではなく、一生を通じて深く関わっていることを理解させる。

○ 各世代における給付と負担のイメージをもたせる。

○ 社会保障制度は、（収入に応じて負担する）保険料と税金で運営されている、支え合いのしくみであることを理解させる。

○ 給付と負担の実際の金額がどの程度なのかを気づかせる。

★解説

○ 社会保障全般としては各年代に応じた制度が用意されているものの、支出金額の規模でみると高齢者向けの支出が大きい。

○ これは、戦後の日本では、右肩上がりの経済成長と低失業率の実現を背景とした安定的な雇用の維持によって人々（特に現役世代）の生活が支えられていたため、社会保障給付の多くが高齢者のための医療や年金、介護に向けられていたためである。

○ 日本の人口構成は他国に類を見ないスピードで少子高齢化が進んでおり、給付は高齢世代中心、負担は現役世代中心の現在の社会保障制度を見直していく必要がある。

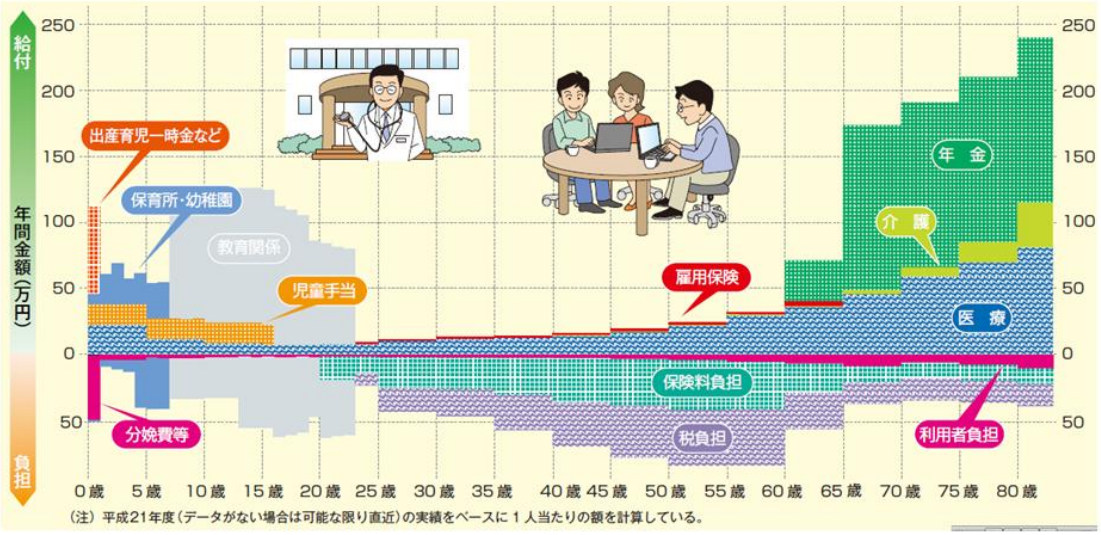
○ 高齢世代が増え、現役世代が減っていく社会であっても社会保障制度を持続可能とするためには、給付・負担両面で人口構成の変化に対応した制度へと改革していくことが必要であり、現在「社会保障と税の一体改革」が進められている。

○ 具体的には、医療、年金、介護など既存の枠組みにも手を加えつつ、子育て支援を中心とする現役世代への給付を手厚くすることや、高齢者にも応分の負担をしてもらうために税制や保険料、利用者負担のあり方を見直すなど、給付・負担両面で人口構成に対応した全世代対応型の制度へと改革していくことが検討されている。

○ ただし、高齢世代向けの給付は、現役世代にとっては、自分の親を私的に扶養する負担が社会保障制度によって軽減されているという面もある。

○ また、現在支える側になっている人（世代）も、病気、けが、老齢、失業、死亡などがあった場合には支えられる側になるものであることには留意が必要である。

ライフサイクルでみた社会保障の給付と負担のイメージ



● ここまでの学習で、社会保障制度に対するイメージはどう変わりましたか？

自由に意見を出してもらう（理由も一緒に）。
例）・現役世代から様々な社会保障制度が用意されており、高齢者向けだけではない。
・公的医療保険のおかげで、けがや病気の時に負担が少なくてすむ。
・年金は、自分の親を養う費用の肩代わりをしてくれている。　など

高校生として必ずおさえておきたい“年金の基礎知識”

★ ねらい
○ 年金制度を例にとり、社会保障制度の役割「社会保険制度」の基本的な考え方を理解させる。
○ 政府が役割を果たしていくためには、財政の問題が不可分であることを理解させる。

上段

★ ねらい
○ 給付と負担の関係がどうあるべきか、自分で考えさせる。

★解説
○ 「国の補助を増やせばいい」という意見が出た場合には、それが結局は税負担の増加が必要になる関係であることを説明する。
○ 「自分で積み立てて、老後にもらえる仕組みにすればいい」という意見が出た場合には、現在の勤労世代は、自分の年金を積み立てているわけではないので、その人たちが高齢世代になったときの年金の負担をどうするのかという問題が出てくるなど、長期的な視点で年金をどう支えていくのか、「世代間の公平」の問題も含めて、国民みんなで考えることが必要であることを説明する。

★ 展開の工夫
○ この設問は明確な解答があるものではないので、自由に意見を出させる中で、政府の役割や財政について考えることができれば良い。
○ 年金を例にした議論を通じて、社会保険制度における社会連帯、世代間の支え合いの関係、負担と給付のバランス関係の重要性などについて“気づき”が得られると望ましい。

高校生として必ずおさえておきたい“年金の基礎知識”

「国民年金」を例にとり、社会保障に必要なお金をどのように集めて、どのように配分しているのかを見てみましょう。

● 20～59歳の国民が支払う保険料の水準（程度）と、お年寄りなどが受け取る年金の水準（程度）と、どちらを重視していくべきだと思いますか？

自由に意見を出してもらう(理由も一緒に)。

保険料を払い始める時期は？

大学に進学する場合　→　20歳から国民年金に加入することになります。

中学や高校を卒業して就職する場合　→　勤め先で厚生年金に加入することになります。（給料から天引きされます）

どうしても払えない時は？

国民年金の保険料の納付が免除・猶予される制度があります。
ただし、申請が必要です。

1．学生で本人の前年所得が一定額以下の場合、保険料の納付が猶予されます。（学生納付特例制度）

2．所得が一定額以下の場合に保険料が免除となる制度があります。

【免除の対象となる所得のめやす】(2012年度)

世帯構成	全額免除 若年者猶予	3／4免除	半額免除 学生特例	1／4免除
4人世帯 （夫婦＋子2人）	162万円	230万円	282万円	335万円
2人世帯 （夫婦のみ）	92万円	142万円	195万円	247万円
単身世帯	57万円	93万円	141万円	189万円

※収入から各種控除した後の所得ベース

4

下段

★ ねらい
○ 社会保険料を負担し始めるタイミングを伝え、特に国民年金については給与天引きではないため、自らが手続きを行う必要があることを理解させる。
○ また、経済的に苦しく保険料を払えない場合に、免除制度や猶予制度という手段があることを理解させる。

★ 解説
○ 経済的に苦しく保険料が払えない場合には、保険料の免除制度を利用することができる（所得に応じて、全額免除の他、4分の1、2分の1、4分の3の免除がある）。免除が認められれば、老後は年金のうち税金分は受け取ることができる。
○ 一方、学生や若年者で保険料を払えない場合には、保険料の猶予制度を利用することができる。こちらは、免除制度と異なり、後から保険料を納めること（追納）が前提となっており、追納しなければ老後に年金を受け取ることができない。

高校生として必ずおさえておきたい“公的年金のメリット”

	★ ねらい ○ 年金と貯金を比較することにより、自分の努力だけではどうにもならないリスクに対する備えとして年金制度の利点を理解させる。
終身受給	★ ねらい ○ 貯蓄にはない公的年金のメリットの１つとして、「長生きに備えることができる」という点を理解させる。 ★ 解説 ○ 実際には、自分が何才まで生きるかはわからない。現代は、100才まで生きるのも珍しくない時代。もしかしたら、長生きして、老後の生活費が多くかかってしまうかもしれない。 ○ 公的年金なら、亡くなるまで受け取ることのできる（終身で保障されている）ため、こうした“長生きのリスク”に対応することができる。
物価変動	★ ねらい ○ 貯蓄にはない公的年金のもう１つのメリットとして、「インフレなどに対応できる」という点があることを理解させる。 ★ 解説 ○ 下段の「昔の物の値段を考えてみよう！」にあるとおり、50年前に比べて物価（物の値段）は上がっている。若い頃に貯蓄したとしても、年をとった時に物価が上がっていれば、そのお金の価値が「目減り」してしまう可能性もある。 ○ 公的年金なら、こうした「物価上昇（インフレ）のリスク」にも対応できる。具体的には、物価が上昇すれば、それに応じて年金額も増額する仕組み（物価スライド）となっている※1。実際、1970年代の石油ショックの際も、物価スライドにより、実質的な年金の価値が保たれている※2。 ※1　2004年以降、少子高齢化に対応して、現役世代の負担能力に見合うよう、年金額が自動的に調整される仕組みが導入されており、物価や賃金の伸びと比べ、年金額の伸びは抑えられる仕組みとなっている。 ※2　物価変動や物価スライド、年金の実質価値などの説明は、生徒の理解度に応じて、適宜立ち入らないこともあり得る。

高校生として必ずおさえておきたい“公的年金のメリット”

●年金と貯蓄を比べてみましょう！

私たちは自分がどれくらい長生きするかわかりません。また、50年後の生活水準を予測することもできません。
老後に備えて貯金をすることは大事なことですが、長い人生には、自分１人では対応できないこともあります。
公的年金があるのは、こうしたリスクへ社会全体で備える必要があるからです。

老後に備えて貯蓄しても…	公的年金なら…
人は、何歳まで生きるかは予測できない。（どれだけ貯蓄をすればよいのかわからない）	終身（亡くなるまで）で受給できる
50年後の物価や賃金の変動は予測できない。（貯蓄しても、将来目減りするかもしれない）	実質的な価値を保障された年金を受給できる
いつ、障害を負ったり、小さな子どもがいる時に配偶者を亡くす（＝所得を失う）かわからない。	障害年金・遺族年金を受給できる

昔の物の値段を考えてみよう！

	うどん１杯	カレー１皿	食パン1kg	コーヒー１杯
1965年	54円	105円	95円	72円
↓	↓	↓	↓	↓
2010年	595円	742円	438円	411円

5

障害年金 遺族年金	★ ねらい ○ 公的年金制度に老齢年金以外の機能があることを気づかせる。 ★ 解説 ○ 障害年金 年金に加入中の病気やけが等が原因で、障害を有することになった場合に支給される。 ○ 遺族年金 年金受給者や被保険者（加入者）が死亡した場合、その人に生計を維持されていた遺族（※）に支給される。	※ 遺族年金を受給できる遺族は、たとえば遺族基礎年金の場合、死亡した人に生計を維持されていた１８歳未満（１８歳の誕生日の属する年度末まで）の子、または１８歳未満（同）の子のいる妻である。 遺族厚生年金の場合、死亡した人に生計を維持されていた配偶者、子、父母、孫、祖父母で、１８歳未満（１８歳の誕生日の属する年度末まで）の子のいる妻や子は、遺族基礎年金もあわせて受けられる。